

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 090

(2025/26年度 USDA米国農務省 1月12日発表)

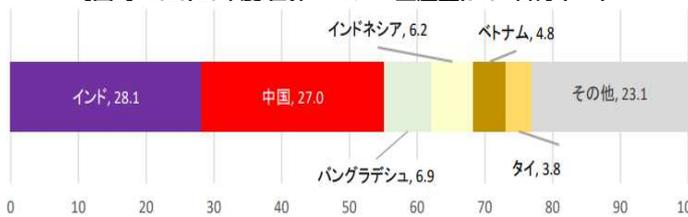
2025/26年度の世界の穀物需給は、この間大きな波乱もなく順調な動きであるが、今までは余り触れていない「コメ」は国内では昨年来からの「令和の米騒動」（価格暴騰）もあり注目度は高まったが、世界的に見た場合は近年その生産/消費量は拡大し貿易量も確実に増加している。この実態について今日はレポートしたい。これは日本のコメのあり方を考える上でも参考にすべき…。

① 下記[図1]は今年度の世界の国別コメ生産量であるが、約5.4億トンの世界生産量はインド/中国の2カ国に集中しそのシェアは両国で約55%に達しているのがコメ市場の大きな特徴である。具体的な主要各国生産量は、インド152/中国146/バングラデシュ37/インドネシア34/ベトナム26/タイ20百万トンとなっておりアジアを中心としたかなりローカルな作物と言える。ただ近年の生産量は00/01年の3.9億トンから見れば1.5億トン/約4割増と目覚ましい。これは人口増と併せ消費地域のアフリカ/中東等への拡大が背景と言える。

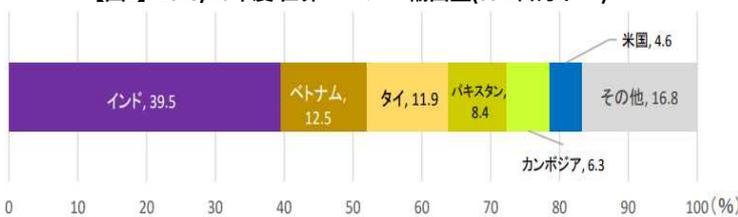
② [図2]はコメの国別輸出量であるが、これはインドの存在感が非常に大きい。今年度輸出量63百万トンのうち約4割25百万トンがインド！その他主要生産国でもあるベトナム/タイが其々8百万トン弱で続いている。インドのコメは2015年前後までは生産量約1.1億トン/輸出量1千万トン前後であったが生産振興策と技術改良等によって生産/輸出とも急速に数量を伸ばしその存在感を高めている。

③ では、そのコメの輸入国はどうなっているのか？図はないが今年度の世界各国のコメ輸入量は59百万トン、輸入主要国はフィリピン/ベトナム/ナイジェリア/中国と続いているがその4カ国合計数量は17百万トン全体の25%程度。残りの75%は中東/アフリカ諸国/メキシコ/ブラジル/その他の中南米/カリブ諸国/EUとなっており、想像以上に世界各国に輸出され「国際化」が進んでいる。もう一方の主食穀物である小麦の生産量8.4億トン/消費量8.2億トン/輸出量2.2億トンには及ばないが、コメの生産/消費市場は間違いなく拡大している。

【図1】 2025/26年度 世界のコメの生産量(540.4百万トン)



【図2】 2025/26年度 世界のコメの輸出量(63.2百万トン)



1. 世界の穀物需給の概要

① 生産量:	2,974百万トン (前年比4.2%)	増 ↑	、	前月比0.7%	増 ↑
② 消費量:	2,958百万トン (前年比2.8%)	増 ↑	、	前月比0.2%	増 ↑
③ 貿易量:	533百万トン (前年比7.0%)	増 ↑	、	前月比0.3%	増 ↑

2. 小麦

① 生産量:	842百万トン (前年比5.2%)	増 ↑	、	前月比0.5%	増 ↑
② 消費量:	824百万トン (前年比1.6%)	増 ↑	、	前月比0.1%	増 ↑
③ 輸出量:	220百万トン (前年比4.4%)	増 ↑	、	前月比0.5%	増 ↑
④ 在庫量:	278百万トン (前年比7.0%)	増 ↑	、	前月比1.2%	増 ↑
⑤ 価格:	\$5.07/Bu (前年\$5.29/Bu / 先月\$5.38/Bu)	と先月比\$0.31 下落。			
⑥ 概況:	世界の小麦生産量は、前月よりアルゼンチン/ロシア等で生産予測が上方修正され全体では約5百万トン増、前年よりも約4千万トンの大幅増加の見込み。消費量も順調に伸びている。輸出量もそれらに連動し2億トンを大きく超え2.2億トンと前年比約1千万トン増加の見通し。期末在庫は生産が消費を上回り2.8億トンと少し重たい。価格は需給緩和から弱含んだが5ドル台をようやく維持。				

3. とうもろこし

① 生産量:	1,296百万トン (前年比5.3%)	増 ↑	、	前月比1.0%	増 ↑
② 消費量:	1,300百万トン (前年比3.9%)	増 ↑	、	前月比0.2%	増 ↑
③ 輸出量:	205百万トン (前年比9.9%)	増 ↑	、	前月比0.0%	→
④ 在庫量:	291百万トン (前年比1.3%)	減 ↓	、	前月比4.2%	増 ↑
⑤ 価格:	\$4.38/Bu (前年\$4.51/Bu / 先月\$4.37/Bu)	と先月比\$0.01 上昇。			
⑥ 概況:	世界の生産量は、主産国の米国/中国で単収が増加したこと等から前月より約14百万トンの大幅上方修正、前年比でも約66百万トン増加し約13億トンの大台に乗る勢いである。消費も順調に伸び何と13億トンに到達！貿易量は2億トン台を回復する見込み。期末在庫は消費が生産を若干上回る為2.9億トンまで減少し在庫率は22%。価格は世界の需要旺盛の為4ドル台半ばを維持している。				

4. 大豆

① 生産量:	426百万トン (前年比0.3%)	減 ↓	、	前月比0.7%	増 ↑
② 消費量:	423百万トン (前年比2.3%)	増 ↑	、	前月比0.3%	増 ↑
③ 輸出量:	188百万トン (前年比1.6%)	増 ↑	、	前月比0.1%	減 ↓
④ 在庫量:	124百万トン (前年比0.8%)	増 ↑	、	前月比1.7%	増 ↑
⑤ 価格:	\$10.30/Bu (前年\$9.81/Bu / 先月\$11.05/Bu)	と先月比\$0.75 下落。			
⑥ 概況:	世界生産量は、ブラジルが好天に恵まれ前月より約3百万トン増収見込み、全体でもその分上積みされている。前年比では若干減少するが史上最高レベルは維持。消費量は生産レベルにほぼ追いついた。市場価格はブラジルの大豊作や中国向け輸出拡大機運が後退した為上記の様に大幅に下落。米中協議の今年度1,200万トン来年以降3年間各2,500万トン輸入も実現は不透明。				

世界の穀物・大豆等の需給

2026年1月12日
米農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2023/24	2,823	3,616	515	2,819	797		
	2024/25	2,854	3,651	498	2,876	775		
	2025/26	12月	2,954	3,726	531	2,953	773	
	2025/26	1月	2,974	3,749	533	2,958	790	
	2023/24	792	1,067	222	797	270		
小麦	2024/25	801	1,071	210	811	260		
	2025/26	12月	838	1,098	219	823	275	
	2025/26	1月	842	1,102	220	824	278	
	2023/24	1,507	1,845	236	1,497	347		
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2024/25	1,512	1,859	227	1,535	323		
	2025/26	12月	1,576	1,898	249	1,588	310	
	2025/26	1月	1,591	1,914	250	1,592	322	
	2023/24	524	705	57	525	180		
米	2024/25	541	721	61	530	191		
	2025/26	12月	540	731	63	542	189	
	2025/26	1月	541	732	64	542	190	
	2023/24	396	498	178	383	115		
大豆	2024/25	427	542	185	419	123		
	2025/26	12月	423	546	188	422	122	
	2025/26	1月	426	549	188	423	124	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	12月	293.37	1,282.96	190.37	1,297.18	205.10	279.15
	1月	294.70	1,296.01	190.22	1,299.80	205.11	290.91
アメリカ	12月	38.91	425.53	0.64	332.25	81.28	51.53
	1月	39.40	432.34	0.64	334.53	81.28	56.56
アルゼンチン	12月	6.28	53.00	0.01	16.40	37.00	5.89
	1月	6.58	53.00	0.01	16.70	37.00	5.89
ブラジル	12月	10.43	131.00	1.60	96.50	43.00	3.53
	1月	10.58	131.00	1.60	96.50	43.00	3.68
EU	12月	6.14	56.75	20.00	75.30	1.80	5.79
	1月	6.21	56.75	20.00	75.30	1.80	5.86
日本	12月	1.37	0.02	15.50	15.50	0.00	1.39
	1月	1.37	0.02	15.50	15.50	0.00	1.39
中国	12月	191.93	295.00	8.00	321.00	0.02	173.91
	1月	191.93	301.24	8.00	321.00	0.02	180.15
ロシア	12月	0.91	14.50	0.05	11.40	3.00	1.06
	1月	0.91	14.50	0.05	11.40	3.00	1.06
ウクライナ	12月	0.84	29.00	0.01	6.00	23.00	0.85
	1月	0.84	29.00	0.01	6.00	23.00	0.85

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	12月	123.24	422.54	186.14	421.85	187.70	122.37
	1月	123.40	425.68	186.04	423.14	187.57	124.41
アメリカ	12月	8.61	115.75	0.54	72.53	44.50	7.89
	1月	8.84	115.99	0.54	72.99	42.86	9.52
アルゼンチン	12月	23.09	48.50	7.70	48.20	8.25	22.84
	1月	23.09	48.50	7.70	48.20	8.25	22.84
ブラジル	12月	36.81	175.00	0.50	63.30	112.50	36.51
	1月	36.81	178.00	0.50	64.40	114.00	36.91
中国	12月	44.49	21.00	112.00	133.00	0.10	44.39
	1月	44.49	20.90	112.00	132.90	0.10	44.39
EU	12月	1.60	2.79	14.30	16.82	0.30	1.57
	1月	1.60	2.79	14.00	16.52	0.30	1.57

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	12月	260.03	837.81	214.39	822.97	218.71	274.87
	1月	260.00	842.17	215.54	823.91	219.76	278.25
アメリカ	12月	23.15	54.01	3.27	31.41	24.49	24.52
	1月	23.26	54.01	3.27	30.84	24.49	25.21
アルゼンチン	12月	2.91	24.00	0.01	7.90	14.50	4.52
	1月	2.60	27.50	0.01	8.10	16.00	6.01
オーストラリア	12月	3.96	37.00	0.23	9.10	27.00	5.09
	1月	3.96	37.00	0.23	9.10	27.00	5.09
カナダ	12月	4.11	39.96	0.60	10.35	28.00	6.32
	1月	4.11	39.96	0.60	10.35	28.00	6.32
EU	12月	11.71	144.00	5.50	114.50	33.00	13.71
	1月	11.71	144.00	5.50	114.50	32.50	14.21
中国	12月	127.78	140.00	6.00	148.00	1.00	124.78
	1月	127.78	140.07	6.00	148.00	1.00	124.85
インド	12月	11.80	117.95	0.25	112.51	0.25	17.24
	1月	11.80	117.95	0.25	112.51	0.25	17.24
ロシア	12月	10.59	87.50	0.30	41.20	44.00	13.19
	1月	10.59	89.50	0.30	41.70	44.00	14.69
ウクライナ	12月	0.93	23.00	0.10	7.60	14.50	1.93
	1月	0.93	23.00	0.10	8.10	14.00	1.93

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

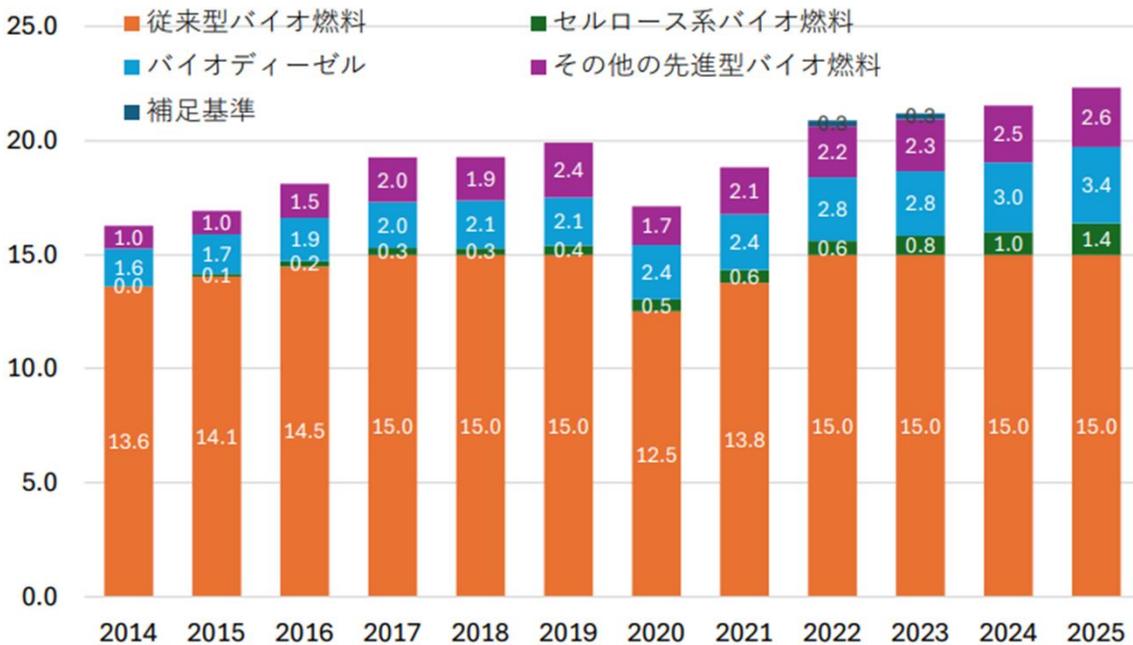
世界のバイオ燃料向け穀物需給の動向(1)

① 先月号では、とうもろこし生産拡大の中での新しい利用形態としてバイオ燃料原料としての利用拡大が進んでいることに触れたが、今月号からはその国別の再生可能燃料全体の生産量推移についてまとめたい。まずは米国に於いては、**再生可能燃料基準(RFS)**が設定され米国環境保護庁(EPA)によってバイオ燃料の混合義務量が定められているが、**その数量は年々増加の傾向**にある。「図1」は2014年以降25年までの再生可能燃料の混合義務量推移であるがそのカテゴリーは4つ ①主にとうもろこしを原料とする「**従来型バイオ燃料**」② 先進型燃料として食物等の非可食部分に含まれるセルロースを原料とする「**セルロース系バイオ燃料**」③ 大豆油や菜種油を原料とする「**バイオディーゼル**」④ SAF等の「**その他先進型バイオ燃料**」と区分されている。其々の温室効果ガス削減要件は2005年石油燃料に対し、①=20%、③④=50%、②=60%と設定されている。2014年以降この12年間の混合義務量とカテゴリー別推移をみると総量は**14年162億ガロン⇒25年224億ガロン**と**約60億ガロン/約4割増**と確実に増加。その中でも特に ③**バイオディーゼル** ④**SAF等のその他バイオ燃料**の伸び率/数量増が目立ち、双方合わせて60億ガロンと**全体の27%**を占めるまで成長している。

② 下記右の「表1」は、2025年6月に米国環境保護庁(EPA)が公表した2026年2027年の再生可能燃料混合義務量(案)であるが、総混合義務量を25年の223億ガロンから**26年240億ガロン、27年245億ガロン**にすることを提示している。カテゴリー別にみると、①**従来型バイオ**は22年以降150億ガロンと据え置かれているが、③**バイオディーゼル義務量**が**25年33.5億ガロン⇒26年56.1⇒27年58.6億ガロン**と大幅に引き上げられているのが最大の特徴であり、そのことが全体総量を押上げている。これは現在の米国の産業政策にも合致しており、**全米各地で大豆搾油工場の新增設工事**が進んでいる。

③ 米国の再生可能燃料の主な原料となるとうもろこしと大豆の生産量は、20年以降とうもろこしは**3.6億ト⇒4.3億ト**と**約2割増産**し圧倒的な存在感を示し、その**約1/3の1.4億ト**は**エタノール生産に利用**されている。また大豆は、**1.1億ト⇒1.2億ト**と**ブラジルに次ぐ生産量**を維持し国内搾油量の**約6割がバイオディーゼル**に利用されている。この詳細は**米国農業の生産/需給構造の変化**として来月号で触れる予定です。

(10億ガロン) [図1]米国の再生可能燃料混合義務量の推移 (2014 年以降)



[表1] 米国の2025年6月に発表された再生可能燃料混合義務量案

単位：10億ガロン

区分	2023	2024	2025	2026 (案)	2027 (案)
再生可能燃料総量	20.94	21.54	22.33	24.02	24.46
先進型バイオ燃料	5.94	6.54	7.33	9.02	9.46
セルロース系バイオ燃料	0.84	1.09	1.38	1.30	1.36
バイオディーゼル	2.82	3.04	3.35	5.61	5.86
従来型バイオ燃料	15.00	15.00	15.00	15.00	15.00

資料：EPA 「EPA Proposes New Renewable Fuel Standards to Strengthen U.S. Energy Security, Support Rural America, and Expand Production of Domestic Fuels」(2025.6.13) をもとに農林水産省が作成